

## 令和2年度 中区自立支援協議会活動報告

### 1. 主な取組内容・事例検討内容等

今年度中区のテーマは昨年度に引き続き「連携支援を考えよう」を掲げ、各分会「指定相談支援事業所交流部会」「作業所交流部会」を中心に協議、取り組みを検討してきた。

#### ○指定相談交流部会

「勉強会グループ」では事例研究を行い、事例を通じて相談支援のプロセスを確認、知識や技術・社会資源を共有することを目的とし、課題の抽出も目指した。全3回「8050・権利擁護」「支援が必要であるが支援の必要性を感じていない（精神障害）」「重度障害者の退院支援」の事例を参加事業所より提供。相談支援員が抱える悩みや葛藤を共有し合い、新たな社会資源の情報や他機関との連携の取り方など、様々な視点での意見交換ができた。

「情報・発掘グループ」はコロナ禍でもタイムリーな情報共有や社会資源の発掘までできることを目指し取り組みを検討した。情報共有ツールとしてチャットワークの運用を開始。新型コロナウイルス関連の情報を共有したいという声が多く上がった為、コロナ禍で相談支援の現場で困っていることや役に立ったことなど意見交換。共生型サービスも増えている為、共生型サービス施設の見学会も取り組みとして予定していたが、緊急事態宣言発令の状況になり中止。1月にはコロナ疑い、コロナウイルス陽性者の相談支援対応の実体験を発表してもらい、緊急時の対応確認や備えの必要性を考えることができた。継続した取り組みを希望する意見が挙がっている。

※次年度もリモートやワーキング別開催となれば、どちらにも参加できる方法（リモート等）や、各ワーキングの取り組みの情報共有の仕方にも工夫が必要との意見があがっている。

#### ○作業所交流部会

今年度は10名程度のグループに分けて開催した。コロナ禍での日中活動の現状共有、困っていること、工夫をしていること等、各事業所の取り組みについて共有した。毎年行ってきた「なかくの当事者交流会」は中止となり、「ナカ・ナカマ♡ネットワーク」（中区内作業所啓発イベント）についても開催方法を変更することとなった。コロナ禍で、地域活動の在り方も変化しており、作業所の自主製品を自治会活動等で使ってもらえるようアピールができないか、作業所の活動が地域の力になることができるといことで、地域との交流状況について現状の把握を行った。まずは地域に知ってもらうことが必要であり、周知や啓発方法について検討した。中区の日中活動の社会資源集の改善についても話し合い、「ナカ・ナカマ♡がいどぶっく」を当事者の視点からも点検してもらい更新作業を中区内の事業所に依頼することした。

#### ○定例会議

書面とリモートのため、各分会の取り組み報告を中心に、それぞれの委員より課題に感じるものの意見を集約した。主には高齢と障害支援機関の連携、緊急時の対応、コロナ対応、権利擁護（日常生活自立支援事業・成年後見制度の利用）、人材不足における支援体制の構築等が挙がっている。

### 2. 中区が課題と捉えていること

- ・新型コロナウイルスの影響 当事者や支援者の直面する課題を整理していく必要がある。
- ・8050問題（支援が必要である状態でも繋がっていない。未然に防ぐ仕組みづくり、ケースの掘り起こし）
- ・防災・緊急時の対応
- ・授産活動の周知
- ・権利擁護（日常生活自立支援事業の利用、成年後見制度の利用）
- ・情報が本当に必要な人に届いていない。わかりやすい情報発信・情報提供の仕方。
- ・児童の支援機関（こども相談所・子育て支援課）との連携 人員体制の課題。支援方針が見えづらい。児から者への支援連携の課題。予防的な動きが必要。